

血管超音波検査

血管超音波検査は、頸動静脈から末梢動静脈に至るまでの血流動態、動脈硬化度の評価、血栓形成、狭窄部位の局在診断、グラフト形成の判定など critical な疾患病態にかかわり、日常診療において大きな位置を占めています。近年、臨床検査技師の専門知識と技術を発揮できる領域として、高い関心を集めています。

いかなる検査においても、検査結果の質の向上はひとえに標準化の充実にあります。正確に再現性よく病変を特定診断するために標準診断法のガイドラインが血管部位別に作成され、これに沿った検査、計測、解析アプローチの基準統一法の実施も広がりを見せています。さらに依頼医師、専門医師・技師が一丸となって患者の訴えから検査情報まで広く共有することで解析力の深化が期待され、周辺領域の情報システムの整備も急がれます。急速に進化する血管超音波検査の現状、問題点、将来展開について実践医療の視点からレビューしていただきました。

(編集委員会)